



医療安全通信 第29号

【薬局部医療安全委員会】

医療安全推進のため、Pharma Bridgeを通じて、医療安全上の周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信いたします。業務手順書の書換えや日常業務にお役立てください。

ベンゾジアゼピン受容体作動薬の依存性について

催眠鎮静薬、抗不安薬、抗てんかん薬等として使用されるベンゾジアゼピン受容体作動薬等の医薬品について、使用上の注意の改訂が指示され、下記の通知が出されました。

これを受けて、ベンゾジアゼピン受容体作動薬を催眠鎮静薬及び抗不安薬として使用する場
合について、「PMDAからの医薬品適正使用のお願い」が発出されましたので、お知らせします。

◆ **催眠鎮静薬、抗不安薬及び抗てんかん薬の「使用上の注意」改訂の周知について**
(依頼) (平成29年3月21日付 薬生安発0321第2, 3号)

<http://www.pmda.go.jp/files/000217230.pdf>

◆ **ベンゾジアゼピン受容体作動薬の依存性について** (PMDAからの医薬品適正使用の
お願い) <http://www.pmda.go.jp/files/000217046.pdf>

ベンゾジアゼピン受容体作動薬は、承認用量の範囲内でも連用により身体依存が形成さ
れることで、減量や中止時に原疾患の悪化や離脱症状があらわれることがあります。

★ 主な離脱症状 ★

不眠、不安、焦燥感、頭痛、嘔気・嘔吐、せん妄、振戦、痙攣発作 等

ベンゾジアゼピン受容体作動薬を 催眠鎮静薬及び抗不安薬として使用する
場合は、以下の点に注意してください。

◎ **漫然とした継続投与による長期使用を避ける。**

- ・承認用量の範囲内でも長期間服用するうちに依存が形成されることがある。
- ・投与を継続する場合には、治療上の必要性を検討する。

◎ **用量を遵守し、類似薬の重複処方がないことを確認する。**

- ・長期投与、高用量投与、多剤併用により依存形成のリスクが高まる。
- ・他の医療機関から類似薬が処方されていないか確認する。

◎ **投与中止時は、漸減、隔日投与等にて慎重に 減薬・中止を行う。**

- ・急に中止すると原疾患の悪化に加え、重篤な離脱症状があらわれる。
- ・患者に、自己判断で中止しないよう指導する。

本邦で承認されているベンゾジアゼピン受容体作動薬

一般名	販売名	一般名	販売名	一般名	販売名
アルプラゾラム	コンスタン、ソラナックス 他	ゾピクロン	アモバン 他	プロマゼパム	レキソタン 他
エソピクロン	ルネスタ	ゾルピデム酒石酸塩	マイスリー 他	メキサゾラム	メレックス
エスタゾラム	ユーロジン 他	トリアゾラム	ハルシオン 他	メダゼパム	レスミット 他
エチゾラム	デパス 他	ニメタゼパム	エリミン	リルマザホン塩酸塩水和物	リスミー 他
オキサゾラム	セレナール 他	ハロキサゾラム	ソメリン	ロフラゼパ酸エチル	メイラックス 他
クアゼパム	ドラール 他	フルジアゼパム	エリスパン	ロラゼパム	ワイパックス 他
クロキサゾラム	セパゾン	フルタゾラム	コレミナール	ロルメタゼパム	エバミール、ロラメット
クロチアゼパム	リーゼ 他	フルトラゼパム	レスタス	クロナゼパム	リボトリール、ランドセン
クロラゼパ酸二カリウム	メンドン	フルニトラゼパム	サイレース、ロヒプノール 他	クロバザム	マイスタン
クロルジアゼポキシド	コントロール 他	フルラゼパム塩酸塩	ダルメート	ミダゾラム	ミダフレッサ
ジアゼパム	セルシン、ホリゾン、ダイアップ 他	プロチゾラム	レンドルミン 他	ニトラゼパム	ネルボン、ベンザリン 他

ベンゾジアゼピン受容体作動薬については、統合失調症患者や高齢者に限らず、刺激興
奮、錯乱等があらわれることがあるので、聴き取りや観察を十分に行いましょう。



医療安全通信のバックナンバーを、旭川薬剤師会公式サイトトップページ右下のバナーからご覧いただけま
す。掲載資料や参考資料もダウンロードできますので、自薬局向けに改訂してご利用ください。